

令和5年度第1回富谷市介護保険運営委員会 会議録

～ 委員会概要 ～

日 時 令和5年7月21日（金） 午後3時30分～午後5時15分

場 所 富谷市役所3階 305会議室

出席委員（16名） 那須 正行、大和 道功、安齋 由貴子、志水田 鶴子、渡邊 裕志、
中谷 良子、大神 健一、大澤 政人、関 克彦、斎藤 翔、平岡 政子、
永野 憲子、佐藤 恵子、増田 恵美子、内ヶ崎 清子、菅原 義則

欠席委員（2名） 笠原 純子、佐藤 一夫

会議に参加したる者 市長 若生 裕俊

事務局出席者（9名）

- 保健福祉部 部長 狩野 悦子、長寿福祉課長 横田 善和、同課長補佐 奥山 晴基、
同主任主査 岡 宣之、保健福祉総合支援センター所長 大谷 江里子、
同副所長 伊東 大助、同主任技術主査 高橋 侑美、社会福祉士 後藤 雄一
 - 市民生活部 税務課長 浅野 輝夫
-

午後3時30分

< 開会 > 司会進行 長寿福祉課長 横田 善和

< あいさつ > 富谷市介護保険運営委員会 委員長 那須 正行
富谷市長 若生 裕俊

（横田課長） それでは、早速議事に入りたいと思います。まず、今年度第1回目の委員会ということで、次第2枚目に名簿を添付させていただいておりますので、皆様ご確認をお願いいたします。また事務局につきましては異動職員もおりますので、記載の構成メンバーで1年間努めてまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、議事進行につきましては、規則第4条に基づき、委員長が議長になることとなっておりますので、那須委員長、進行方よろしくをお願いいたします。

（那須委員長） 着座のまま進行させていただきます。議事を進行するにあたり、委員の皆様様の活発なご意見を期待いたしますとともに、議事進行につきましてご協力をお願いいたします。それでは早速ですが、審議に入ります。(1)令和4年度介護給付実績等について、事務局から説明をお願いします。

（奥山課長補佐） <協議事項（1）① 令和4年度介護給付実績等について>

(那須委員長) 只今の事務局の説明につきまして、委員の皆さまから、ご意見・質問等
ございますでしょうか。

(内ヶ崎委員) 説明のありました準備基金の残高 6 億 2 千万。この金額について事務局
とすれば、どのようにお考えなのでしょうか。十分なのか、まだまだ足りないのか、
というようなところをお聞かせいただきたいと思います。

(横田課長) 介護給付費準備基金につきましては、記載のとおり令和 4 年度末の残高が
約 6 億 2 千万程でございます。例えば介護保険サービス給付費については、およそ 2
億ほど月額としてみると掛かっておりますので、大体 3 ヶ月ほどぐらいの金額があ
れば、そういった不測時にも対応できると見込んでおり、この金額について現時点
では妥当であると考えてございます。

(那須委員長) そのほかございますでしょうか。

< 特になし >

(那須委員長) 続きまして、介護保険料調定額、収納額及び収納率の推移につきまして、
事務局から説明をお願いいたします。

(浅野課長) < 協議事項 (1) ② 介護保険料調定額、収納額及び収納率の推移について >

(那須委員長) 只今の事務局からのご説明につきまして、皆さんからご質問等ありまし
たらお受けいたします。

(内ヶ崎委員) 還付未済額についての説明をお願いしたいと思います。

(浅野課長) 還付未済額につきましては、年度途中で被保険者の方が死亡または転出さ
れたときに、結果的に多く納めていた介護保険料について還付案内をしますが、実
際にはその請求書がこちらに提出されず、まだ返せずにいるもので、この金額が合
計で 35 万 4,600 円となっております。

なお、半年に 1 度程度、改めてご案内を出しているところであります。

(内ヶ崎委員) 還付請求書が本人から届かないような場合は、どのような処理をされる
のですか。

(浅野課長) 本人から請求書が届かなかった場合は、還付の請求権が法律で 2 年の時効
となっており、それをもって時効完了により、その還付をすることができないとい
うような取り扱いになってしまいます。

(永野委員) 不納欠損額の詳しい説明をお願いします。令和 3 年度と令和 4 年度と比べ
ると 52 万 1,273 円と開きがあるので、何か対策はありますでしょうか。

(浅野課長) 不納欠損額を出さないように、法律に基づき督促催告、そのあと電話、或

いは自宅訪問を行っているところでございます。さらに納めがない場合につきましては、預金或いは不動産の資力調査を行い、納付資力があると判断した場合は強制執行なども行っているところであります。

(永野委員) 普通徴収分が多分 65 歳年齢到達の狭間にあつて、年金天引き以外に納付しなければいけない人がいて、未払い分の積み重ねが多いってということでしょうか。

(浅野課長) 資力調査や生活の実態調査を行った結果、なかなか納めたくても納められない方もおりますので、その辺は見極めながら納付指導を行っているというところでございます。

(那須委員長) 只今のご質問とご回答について、例えば、他の市町村の場合と比較したものはありますか。

(浅野課長) 他市町村資料については持ち合わせておりませんが、本市では毎年微増ではありますけれども収納率の方は上がっているところでございます。収納担当も頑張っており、多分、県内の収納率の方は高い方ではないかというふうには見ているところであります。

(那須委員長) ありがとうございます。ほかにご質問ございませんか。

<特になし>

(那須委員長) それでは、次に移ります。高齢者保健福祉事業等実績及び令和 5 年度計画につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(伊東副所長) <協議事項 (1) ③ 令和 4 年度高齢者保健福祉事業実績、令和 5 年度計画について>

(那須委員長) はい、ありがとうございます。ご意見等ございますでしょうか。

(斎藤委員) 9 ページ、実績評価について、認知症に関する理解促進の部分で、実績評価は達成できているとなっておりますが、認知症カフェ等の開催件数等ではなく、参加人数とかの部分はどうなってるかお伺いします。

(大谷所長) 認知症カフェ自体に関しては、家族会も含めて参加者は減少傾向ということとは特にございませぬ。ただ、一部圏域によってはカフェの方に参加いただく方がなかなか伸び悩んでいるというところは確かにございます。なお、設置数に対しての評価として、二重丸とさせていただきます。

(那須委員長) はい、その他質問ある方いらっしゃいますか。

(安齋委員) 9 ページ、認知症の初期集中支援チームのところでは、いずれも支援困難になってしまっているケースであったというようなご報告があったと思います。具

体的に今後に向けて、どのように早期に発見してみんなで関わっていくというような体制というか方法について、どう考えていらっしゃるかという案がありましたら教えていただければと思います。

(大谷所長) 初期集中に関しましては、できるだけ初期の段階に集中的に関わって、医療につなげたりとか地域での見守り活動に繋いでいくという事業になります。

また、認知症の学びの講座などでサポーターを増やして地域の見守る目を増やしていくところとか、カフェなどでも、自分の認知症チェックなど少し取り入れていただくとか、認知症というものが特別なものではない、予防という認識よりも備えという認識で今は考えております。

(安齋委員) 認知症に関しては本当にいろんな事業が行われて10年前に比べると、住民の方々の理解ですとか、認知症に対しての考え方とか変わってきているのをすごく実感するので、今後ともよろしく願いいたします。

(那須委員長) そのほか、ありますでしょうか

(志水委員) 2 ページ、心と体の元気づくりの推進について、閉じこもりの方に対するアプローチということなんですけども、出てくる人は出てくるけども、出てこない人は出てこないということがあります。

また、男性と女性で比べた時には男性の方が中々参加しづらい、サロンとかだと圧倒的にやっぱり男性が参加しないというようなことがあるので、例えば役割とか割と研究的内容のものとか結構好評だったりするようなどころもあるので、巻き込んでいく手法が必要かと思ったりしますので、事業計画の中で具体化していくところで、反映されればいいなと思います。

3 ページ、サポーター獲得が課題のところ、高齢化率が低いという一方、担い手は高齢化していくという話があり、新規の人材確保については、戦略的にサポーターになりたいというふうに思うような魅力や自分にとってメリットがあるということ、役割があるということは健康に非常に大きな影響、良い影響があるというのは研究でもわかっておりますので、人材を発掘していくようなPR もいいんじゃないかなと思いました。

9 ページ、認知症の学びの講座のところ、事業計画のところ、地域職域学生等に向けた普及啓発とありますが、高校とか中学校や小学校とか、あと、例えば学生っていうと富谷市に住んでいても、いろんな学校に散らばるわけでありまして、どのようなイメージなのかということをお教えいただければと思います。

(大谷所長) 先ず、サポーターに関してですが、本当に魅力ある役割とかご自身に戻っ

てくるものであるというところで、委員おっしゃるとおりかと思えます。

今年も養成講座の1回目を実施したのですが、実際のところ数値的には20名を下回っておりますので、次に繋がっていただくところを少し意識しながら、本年度に関しては、実施をさせていただいたところです。

次に、認知症学びの講座に関してですが、職域に関しては今年は郵便局からの申し出による実施のほか、校長会を通じて働きかけを行い、中学校の方で今年も今のところ2ヶ所で実施をしているところでございます。

(志水委員) 中学生ということでしたけれども、小学生とか、保育園幼稚園の時から高齢者の方と交流をして、たくさんの方がこの地域に住んでいるし、いろんな人達がいるんだということを肌身でわかりながら、認知症について学ぶというようなところも重要なのかなと思いました。

(那須委員長) そのほか、ありますでしょうか

(大和委員) 前回は質問したのですが、ヤングケアラーの関係で、主管課は教育委員会だと思っておりますが、今から問題になると思っておりますが、ヤングケアラーというのは小学生、中学生、高校生、大学生でもなっており、介護保険とは無縁の関係のようで縁もあるんですね、考えてみるとね。介護保険の関係も大事なんですけども、ある程度(社会)全体で考えていただきたいなと思っております。

(狩野部長) 前回はヤングケアラーにつきましてご質問いただいております、只今、子育て支援課の方で、昨年12月に実施した子どもの生活に関する実態調査の中で、聞き取りを行っております。現在、集計分析中ではありますが、ヤングケアラーという言葉を知っているかどうかや、家族のそういったお世話をしているかどうかということも含めて質問をさせていただいたところです。調査の中では、誰にも相談していないという回答がやはり多く、その理由が、相談するようなことではないというふうになりまして、本人が思ってしまうことで支援にも繋がらないというふうなことになるので、地域の方ですとか皆さんの中で、気になるなという時は、ご相談いただくと、学校等との連携を取りながら、個別に相談に乗っていただくことができるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(那須委員長) そのほか、ありますでしょうか。

<特になし>

(那須委員長) ありがとうございます。続きまして、事業計画の策定につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

(奥山課長補佐) <協議事項(2)① 実態把握調査結果及び課題分析について>

(那須委員長) 只今ご説明いただきましたが、ご意見、ご質問ありますでしょうか。

(安齋委員) 所管ではないかもしれませんが4ページ、健診結果で、所見ありとなった方に未受診の理由ということで、現在の健康状態では必要感じていない、というのがほとんどを占め、検診を受けても結果で行動に移さないとあまり意味がないというところが宮城県は多いというのはよく聞きますが、具体的にどのような対応をされているかというのを教えていただければと思います。

(大谷所長) 調査結果について、所見ありにもかかわらず、未受診状態であるということは衝撃を受けた結果でした。早速、健康推進課と共有をしており、有所見者に対しては、お手紙を送って受診を促すという取り組みをしているところではありますが、今年からは、直接的に連絡をしたりとか、或いは訪問したりとか、喫緊でできるところからということで先日協議した次第でございます。

(安齋委員) こういう方々が状態が悪くなって要介護状態に繋がっていくんだろうと思いますので、対策をお願いしたいと思います。

(那須委員長) ほかにございますか。

<特になし>

(那須委員長) では、次に高齢者保健福祉計画第9期介護保険事業計画策定につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(横田課長) <協議事項(2)② 事業計画の作成について>

(那須委員長) ありがとうございます。特にご質問ありますか。

<特になし>。

(那須委員長) それではトータルとして、最後に、何か質問あればと思います。よろしいですか。

< 特になし >

(那須委員長) それではその他の項目に移ります。事務局から説明をお願いします。

(横田課長) その他ということで、次回、第2回運営委員会につきましては、9月22日金曜日午後2時からこちらの会場で予定してございますので、何卒よろしくお願ひしたいと思います。

(那須委員長) ありがとうございます。これにて、議事の方を終わります。それでは

事務局に進行をお返しします。

< 協議終了 >

(横田課長) 那須委員長、ありがとうございました。最後に、参考資料ということで第8期介護保険事業計画の概要版と4月1日現在の市内事業所一覧表を提出させていただいておりましたので、後程ご高覧いただければと思います。

それではこれもちまして、令和5年度第1回の富谷市介護保険運営委員会の理事会を終了いたします。皆様大変お疲れ様でございました。

< 閉会 >17:15